

CeMI 気象防災支援・研究センター

News Letter

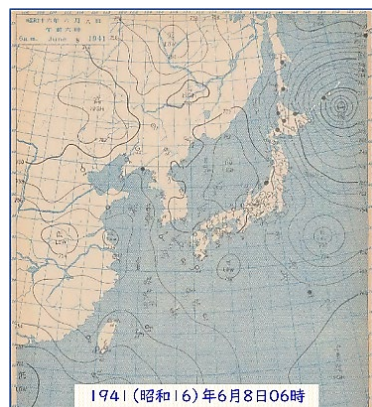
Contents

1. 終雪
2. 土砂災害警戒情報について
3. お天気よもやま話 ~ソメイヨシノについて

1 終雪

初雪という言葉は良く耳にしますし、冬の訪れを告げるものとして関心も高いものですが、終雪はほとんど報じられることはありません。初雪はその冬に初めて雪が降ることなので、その時点で初雪と特定することができますが、終雪の場合には、いつがその日なのかは少し季節が進まないと確定できません。そうしたこともあって「今日が終雪です」といった発表はできず、話題にのぼることもありません。

100年前後の記録が残る全国の約150か所の気象官署の中でこれまでに最も遅く降雪を観測したのは1941〔昭和16〕年6月8日で、網走と根室で観測されたものです。



6月6日から7日にかけて低気圧が東北地方を発達しながら通過し、8日には千島列島付近に進んで、北海道は西高東低の冬のような気圧配置となりました。例年ならば、西日本ではそろそろ梅雨に入る時期で、低気圧が発達しながらこのようなコースを通ること自体、

非常に珍しいことです。この低気圧の通過後に寒気が流れこんだため季節外れの寒さとなりました。この日の網走の最低気温は1.5℃、最高気温は4.2℃でした。

北日本では4月に雪が降ることも珍しくはありませんが、東日本から西日本の多くの所では終雪の平年日は3月初めから中旬頃に桜が開花する頃にはほぼ雪を見ることはなくなります。しかし、稀に3月末や4月上旬に雪が降ることもあります。桜の花との共演、といった珍しい光景が見られることもありますが、開花した桜にとっては迷惑な話かもしれません。

昔の書物には天気に関する記載が多く残っています。もちろん、現代のような正式な観測記録ではないので、理解しがたいものもあります。例えば、真夏の時期の「雪降る」といったものは、氷あられや雹のようなものを“雪”として記したもののように思われます。

ただ、江戸期の書物には現在の4月や5月初めの頃の雪の記述が散見され、今よりはかなり寒かったのではないかということがうかがえます。天明6年3月6日〔新暦では1786年4月4日〕江戸で「昨夜より今朝にいたり大雪尺に盈たり(みちたり)」、その9日後には「雪降る。桜の花に積もる。」といったものがあり、桜の開花そのものも、今よりはかなり遅かったことが分かります。





2 土砂災害警戒情報について



土砂災害警戒情報は、大雨警報（土砂災害）が発表されている市町村で、土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況になった時に発表されます。発表は市町村単位。気象台と都道府県砂防部局が共同で発表します。発表にあたっては、避難にかかる時間を考慮し、土石流やげ崩れがいつ発生してもおかしくない状況となる2時間前に発表するよう努めています。

土砂災害警戒情報の発表は、降った雨が地面の中のどれくらいたまっているのかを表す「土壌雨量指数」と1時間に降った雨の量のふたつの要素の組み合わせで判断しています。土砂災害は、雨が降り続き総雨量が多くなった時にも発生しますが、総雨量がそれほどでもなくても、短い時間に非常に激しい雨が降った時に発生する場合があります。それらの状況をカバーできるよう、土壌雨量指数と1時間の降水量のふたつの要素で判断しているのです。発表のおおまかな仕組みですが、まず、地域を1キロ四方のマスキュ（メッシュ）で区切り、それぞれのメッシュごとに、過去に土砂災害が発生した時の雨の降り方や発現頻度などから基準を決めています。そして、実際に大雨が降ってきた

時には、1キロメッシュごとに2時間後までに基準を超えるかどうかを判断します。基準を超えるメッシュが1つでも現れると、その市町村に対して、土砂災害警戒情報を発表するという仕組みになっています。そして、土砂災害警戒情報が発表された市町村では、土砂災害の危険度が高まった地域を対象に避難指示を発令する等の対応を行います。

土砂災害警戒情報が発表されたことを知った住民のみならずには、自分の市町村のどこで土砂災害の危険が高まっているのか、ぜひ気象庁ホームページの土砂キキクル（大雨警報（土砂災害）の危険度分布）で確認してください。高齢者等、避難に時間のかかる方は、土砂キキクルで遅くとも「警戒」（赤）が現れた時点で、その他一般の方は遅くとも「危険」（紫）が現れた時点で、土砂災害警戒区域等の外の安全な場所へ速やかに立退き避難してください。土砂災害から命を守るため、土砂災害警戒情報と土砂キキクルを活用しましょう。

※土砂キキクル（大雨警報（土砂災害）の危険度分布）
<https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#elements:land/>



3 お天気よもやま話 ～ソメイヨシノについて



4月です。花の季節がやってきました。4月の花と言えば、桜ですね。桜と言っても、最も多く植栽されていて、気象台が開花宣言するさくらは「ソメイヨシノ」です（北海道や沖縄などでは異なる品種を観測しています）。皆さんにとって最も馴染みが深い桜ですね。その要因は、花の美しさや華やかさではないでしょうか。春になって、暖かくなって一気に開花して満開になった時の美しさは言葉に表されないくらいです。葉より花が先に咲きますので、よりきれいに見えるのですね。

ところで、ソメイヨシノは1本の原木から接ぎ木などによって増殖されました。つまり日本中のソメイヨシノは同一の遺伝子を持っています。そのため、同じ環境では一斉に花が咲きます。

さて、近年は、関東から九州、特に太平洋側では、ソメイヨシノは3月の花と言っても良いような状況になって来ました。都市化の影響や温暖化の影響があるのでしょうか。また、ソメイヨシノは冬場の気温が下がることによる休眠打破が必要とされています。たとえば、去年のソメイヨシノの開花日は、東京が3月14日だったのに対して、気温が高いはずの鹿児島が3月24日と10日も遅くなりました。寒気にさらされない春を感じられないということなのでしょう。地球温暖化が進むと九州南部などでは桜が咲かなくなるってことも起こりそうです。お酒のみにとって「花見」は一つのイベントですので、さみしくなりそうです。

桜は3月から4月の年度替わりの時期に咲く花ですので人生の岐路にたとえられます。半世紀近く前には、大学入試結果を電報で知らせるサービスがありました。合格した場合は「サクラサク」でした。不合格の場合は・・・わかりますよね。実に日本的なサービスでした。でもソメイヨシノは散るときも花吹雪になりますので、それはそれで楽しめます。



掲載内容へのご意見、その他サービスに関するご相談・ご要望等ございましたらお気軽にご連絡ください。

NPO法人 環境防災総合政策研究機構 (CeMI)

気象防災支援・研究センター

〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22ローヤル若葉606号

<http://www.npo-cemi.com/center.html>

☎ 03-3359-7971

☎ 03-3359-7987

✉ advisory@npo-cemi.com

